

# 国営讃岐まんのう公園

マネジメントビジョン2050（案）

<b>1. マネジメントビジョン2050策定にあたって</b>	<b>2</b>	<b>3. マネジメントビジョン2050</b>	<b>24</b>
マネジメントビジョン2050策定の目的	3	コンセプト	25
マネジメントビジョン2050策定のプロセス	4	まんのう公園全体のビジョン	26
<b>2. マネジメントビジョン2050に向けての現状と課題</b>	<b>5</b>	各ゾーンの取組の方向性	27
<b>(1) まんのう公園の概要及び基本計画等</b>	<b>5</b>	各ゾーンの目指すべき姿	28
まんのう公園の概要	6	ゾーン間の連携	40
まんのう公園のゾーンの概要	7	回遊利用イメージ	41
入園者数の推移	8	満濃池周辺との連携	45
まんのう公園の基本計画	9	満濃池及び周辺施設	46
まんのう公園の基本テーマ	10	まんのう町の地域資源、香川県内の観光施設	47
<b>(2) まんのう公園が果たしてきた役割と公園の活性化に向けた課題</b>	<b>11</b>	香川県及びまんのう町との連携	49
地域活性化への貢献	12	ビジョン実現に向けた意見交換の場（公園協議会の設置）	50
各ゾーンにおける利用状況	13		
持続的な公園経営に向けた更新投資	14		
公園の活性化に向けた課題	15		
<b>(3) まんのう公園を取り巻く社会情勢と公園が果たすべき役割</b>	<b>16</b>		
まんのう公園が果たすべき役割	17		
Well-beingの追及	18		
ネイチャーポジティブの浸透	20		
観光・旅行形態の多様化	22		

# 1. マネジメントビジョン2050策定にあたって

# マネジメントビジョン2050策定の目的

まんのう公園は、日本最大の灌漑用のため池である「満濃池」に隣接する四国圏で唯一の国営公園です。

平成10年度に供用開始されて以降、令和5年度までの26年間にわたり、国・管理運営事業者を中心とした管理運営により、累計1,000万人以上の利用者を迎えてきました。

この間、継続的な公園整備を進め、平成25年には全園を開園し、基本計画に示された公園の基本理念等の実現に向けて、園内の多様な資源を活用した取組を進めてきました。

マネジメントビジョン2050（以下、「本ビジョン」という。）は、社会情勢の変化を捉え、国・管理運営事業者・関係者等の幅広い連携と共通理解の下で、将来に向けて取組をさらに発展させることを目的として、概ね20年間のマネジメントビジョンを示すものです。

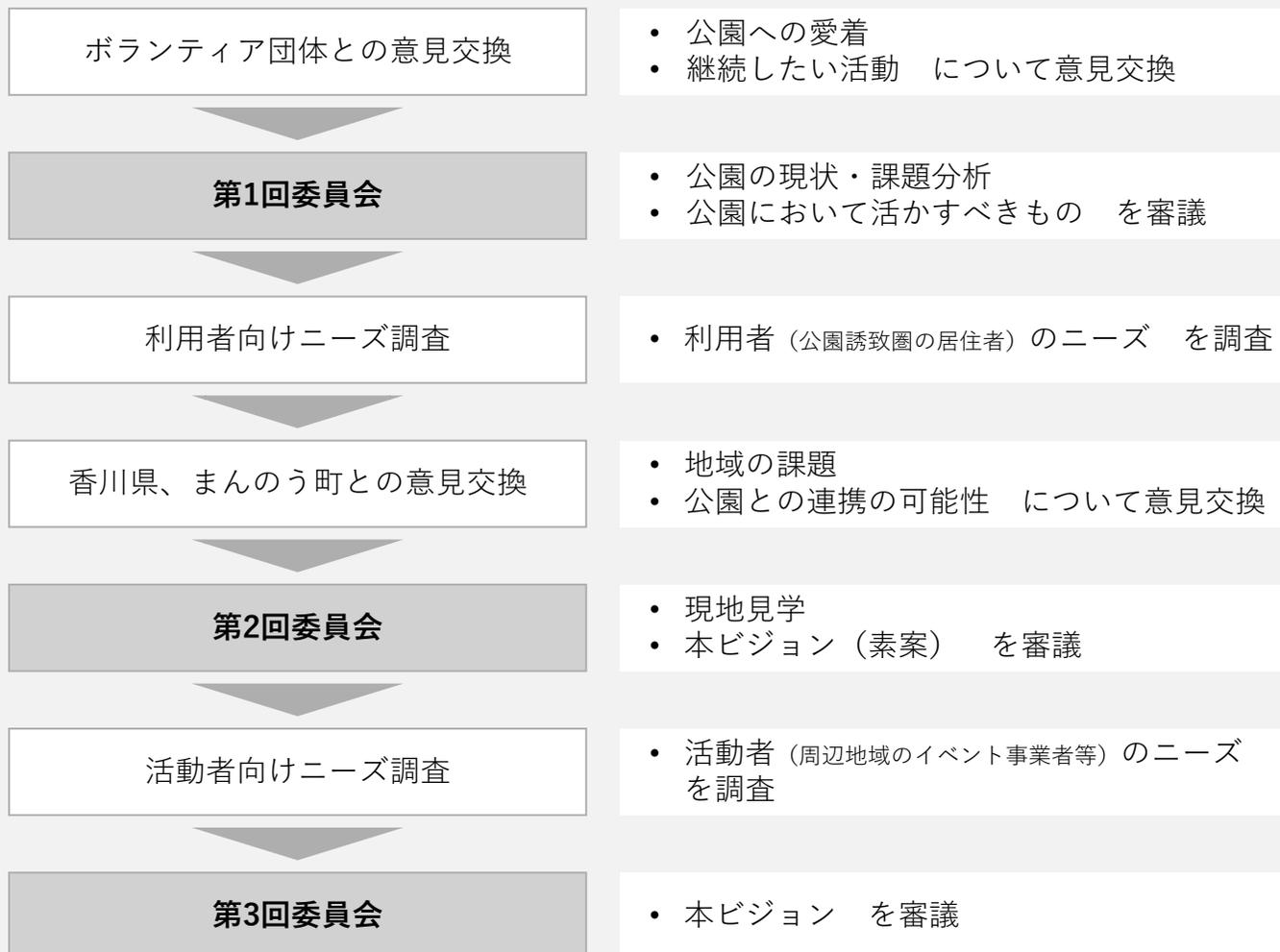
## 本ビジョンの位置づけ



# マネジメントビジョン2050策定のプロセス

本ビジョンは、利用者や活動者のニーズ調査や、ボランティア団体、香川県、まんのう町との意見交換を行い、まんのう公園の活性化に向けた機運醸成を図りながら策定しています。

## 本ビジョン策定のプロセス



## 2. マネジメントビジョン2050に向けての現状と課題

### (1) まんのう公園の概要及び基本計画等

# まんのう公園の概要

項目	内容
名称	国営讃岐まんのう公園
種別	イ号国営公園 (都市公園法第2条第1項第2号)
所在地	香川県仲多度郡まんのう町吉野4243-12
事業着手年度	昭和59年度
供用開始年度	平成10年度（平成25年度全面供用開始）
公園管理者	四国地方整備局
敷地面積	約350ha（対象敷地は令和6年4月現在の供用区域の面積）
概要	日本最大の灌漑用のため池である「満濃池」に接する、四国で唯一の国営公園
入園者数	開園（平成10年度）から令和5年度までの入園者数の累計は約1086万人。新型コロナウイルス前の7年間は平均53万人/年、令和5年度は約49万人程度。

## 基本理念

- ・本公園は、空海（弘法大師）が一つの偉業として後世に遺した満濃池とその周辺の豊かな自然、そして彼を生んだ四国の文化的土壌を活かし、高度成長の中で、ともすれば失われがちな自然・宇宙といった生存基盤との直接的交流をはぐくむものとする。

## 基本テーマ

- ・「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい」

## 基本方針

- ① 子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動が行える公園とする。
- ② 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を生かした四国らしい公園とする。
- ③ 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、滞在型の利用や四国を訪れる観光客の利用もできる公園とする。
- ④ 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて、豊かな人間形成に役立つ公園とする。

## 年間の主要イベント

- ・広々とした空間や、色とりどりの花木を生かした四季イベントを開催している。
- ・中四国最大級の音楽フェスである「MONSTER baSH（モンスターバッシュ）」や「四国B級ご当地グルメフェスタ」なども開催されている。



公園の位置

4月	5月	6月	7月	8月	9月
春らんまんフェスタ	あじさいまつり	サマーフェスタ	秋！色どりフェスタ		
10月	11月	12月	1月	2月	3月
秋！色どりフェスタ	ウィンターファンタジー	リレーマラソン	早春フェスタ		



モンスターバッシュ

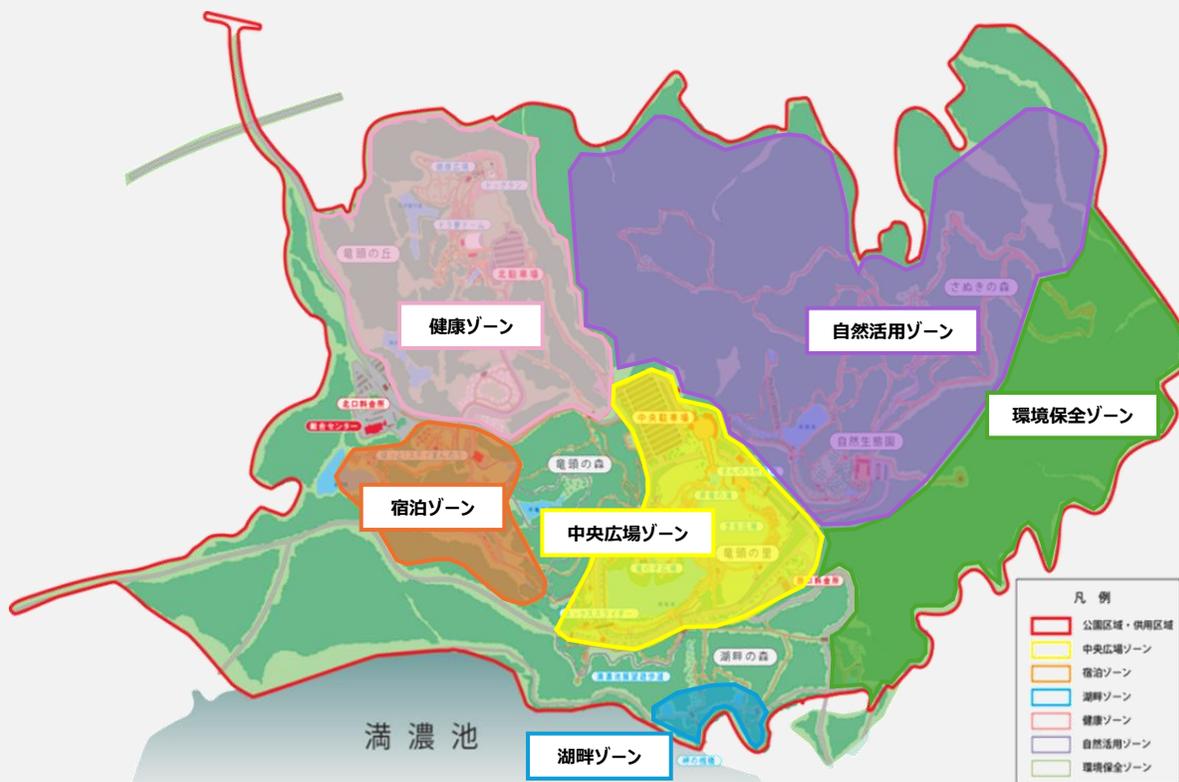


四国B級ご当地グルメフェスタ

# まんのう公園のゾーンの概要

まんのう公園では、以下の6つのゾーン（中央広場ゾーン、健康ゾーン、自然活用ゾーン、宿泊ゾーン、湖畔ゾーン、環境保全ゾーン）を設定しています。

ゾーニング図



各ゾーンの概要

ゾーン名	各ゾーンの概要
中央広場ゾーン	本公園の中心であり、入口らしさの演出の他、様々なイベントのできる芝生広場、数多くの花や遊具を主体としたファミリー利用型の誰でも手軽に利用できるゾーン（32.9ha）
健康ゾーン	四国数々の花・紅葉風景の中で、子どもからお年寄りまで、自分に合った心身の健康づくりができるゾーン(34.0ha)
自然活用ゾーン	自然生態園を中心とした四国らしい里山環境や豊かな自然環境の中で自然観賞、レクリエーション活動、持続可能な社会づくりについての体験・学習ができるゾーン(84.6ha)
宿泊ゾーン	最大106家族収容可能な四国最大級のオートキャンプ場で、ファミリーや団体で利用できるキャンピングカーサイト等の宿泊機能を備えたゾーン（18.2ha）
湖畔ゾーン	満濃池周辺の自然環境を保全・活用しながら、地域固有の景観である満濃池や象頭山を眺め、空海の事跡やため池のある中讃地域の自然環境に触れるゾーン(2.0ha)
環境保全ゾーン	公園外延部及びゾーン間の緩衝樹林帯など、主に自然環境の保全を目指すゾーン（178.3ha）

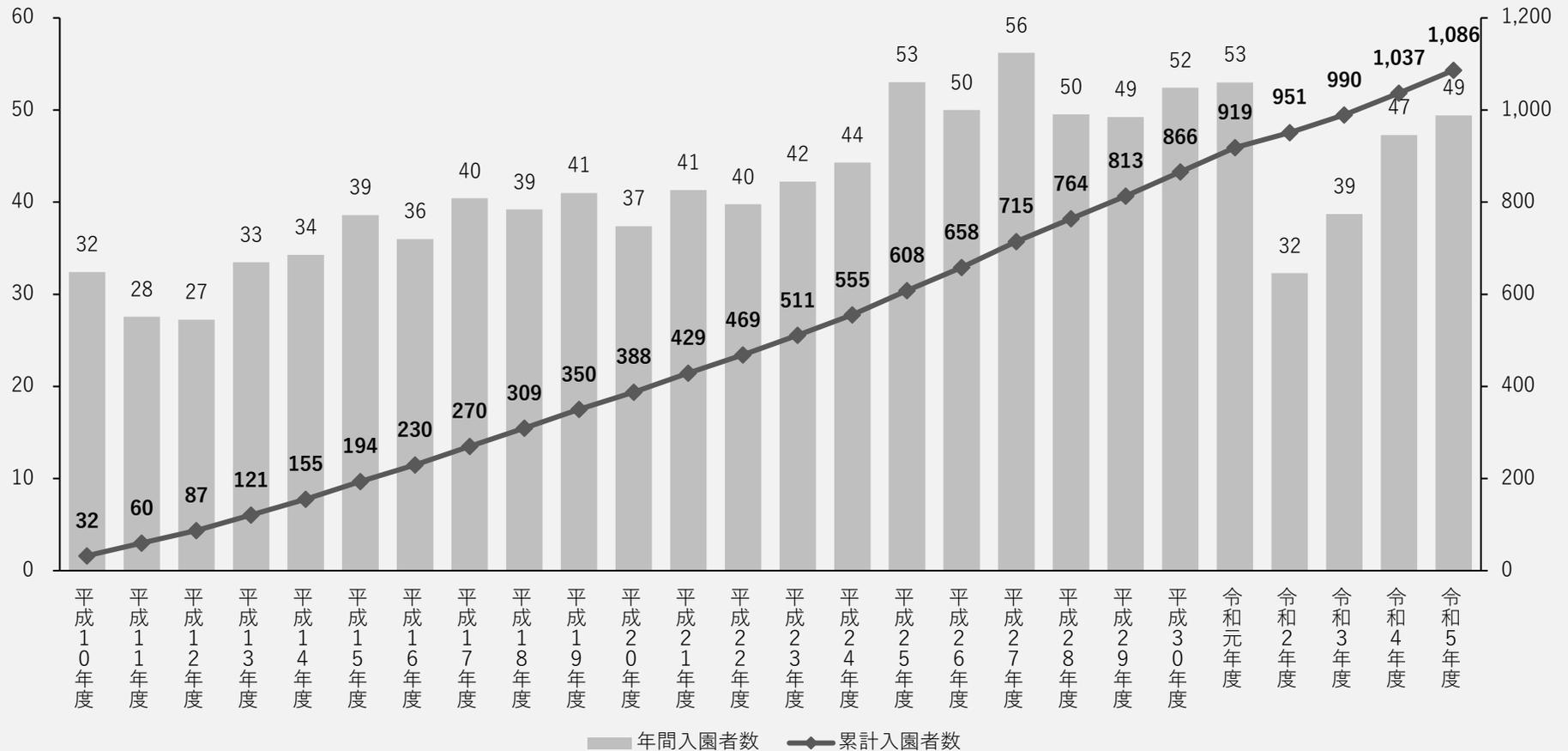
# 入園者数の推移

本公園の入園者数は、全面供用した平成25年度以降、年間約50万人で推移しています。令和2、3年度は新型コロナウイルスの影響により減少しましたが、令和4年度には47万人が入園し、累計入園者数は1,000万人に到達しました。

年間入園者数（万人）

開園からの入園者数の推移

累計入園者数（万人）



# まんのう公園の基本計画

まんのう公園の基本計画においては、以下の基本理念及び基本方針が定められており、現在もこれに基づいて、公園づくりを進めています。本ビジョンは、基本計画における基本理念等の実現にも資するものとして、策定しています。

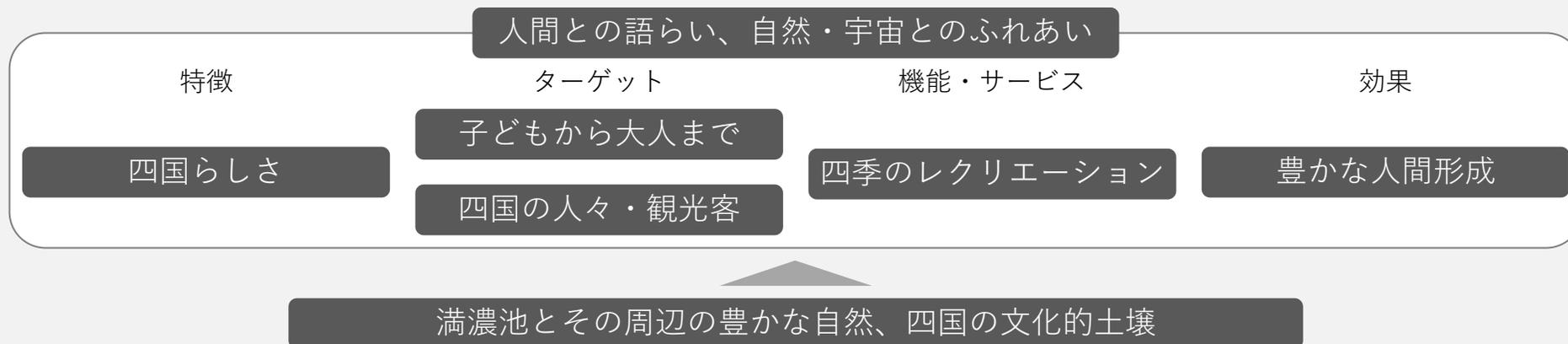
## 基本理念

本公園は、空海（弘法大師）が一つの偉業として後世に遺した**満濃池とその周辺の豊かな自然**、そして彼を生んだ**四国の文化的土壌**を活かし、高度成長の中で、ともすれば失われがちな**自然・宇宙**といった生存基盤との直接的交流をはぐくむものとし、その基本テーマを「**人間との語り、自然・宇宙とのふれあい**」とする。

## 基本方針

- ア) **子供から大人まで四季を通じて多様なレクリエーション活動**が行える公園とする。
- イ) 計画地の特性や地域の文化、歴史、風土等を生かした**四国らしい公園**とする。
- ウ) 四国地域の人々の日帰り利用を主体とするが、**滞在型の利用や四国を訪れる観光客の利用もできる**公園とする。
- エ) 公園の豊かな自然とのふれあいや様々なレクリエーション活動、イベントを通じて、**豊かな人間形成に役立つ**公園とする。

## 基本計画の構成要素



# まんのう公園の基本テーマ

「人間との語らい、自然・宇宙とのふれあい」という基本テーマは、利用者に対して、①利用者による文化の承継と創造、②動的・静的を含む幅広い野外活動、③自己と宇宙の同一性を発見、の機会を提供することを示しています。

## 人間との語らい

### ①利用者による文化の承継と創造

#### 3-1. 人間との語らい

##### 3-1-1. 参加型文化施設の導入

四国の伝統文化の継承と共に、新たな文化創造をも行い  
うる公園を目指す。

昭和30年代以降の経済の発展について、国民の生活水準は著しく向上した。ところが物質的な充足に重点が置かれるあまり、精神的な充足は希薄とならざるを得なかった。

しかし物質的な充足がある程度達成された今日、単に物質から精神への重点移行といったデカルトに代表される西欧的二元論で片づけるのではなく、新たな物質と精神の調和が求められているのではないだろうか。昨今、文化の享受や創造への参加志向が各地で顕著になりつつあることは、こうした時代の潮流を如実に物語っている。

国営公園は本来、総合的な公園としての性格を有しており、文化関連の施設も公園施設として導入すべきである。文化関連の代表的な施設として、博物館や美術館等が挙げられるが、こうした展示を本位とした施設では、広域的誘致圏を有するレクリエーション施設として利用者のニーズを十分に満たすことはできないであろう。

**本公園には、陶芸や木彫等の地域の伝統文化を背景とした利用者自らが文化の創造に参加し得る施設を導入することが望ましい。**

参加型の文化施設には、充実した運営・管理システムの確立が不可欠である。例えば技能指導者の招へい、文化活動のプログラム作成、文化関連のイベント企画等が必要となり、こうしたソフトウェアの良否が、施設の存廃を決するに違いない。

## 自然とのふれあい

### ②動的・静的な幅広い野外活動

#### 3-2. 自然とのふれあい

##### 3-2-1. アウトドアライフの実践

自然志向に対して、多彩なアウトドアライフの  
営める公園とする。

**アウトドアライフは、動的要素から静的要素までの幅広い内容を含んだ野外活動の総称**として捉えることができる。アメリカから移入されたキャンピングを骨格に、自然探勝、山菜の採取、釣、林間スポーツ、林間遊戯活動、あるいは地域の年中行事への参加までを包括した複合的なレクリエーション活動が対象となる。

昨今、国民の自然志向には根強いものがあり、アウトドアライフによる健康の増進や体力の向上ならびに情緒性のかん養により、日常生活において蓄積したストレスを、ことごとく払拭することが可能であろう。アウトドアライフは今後、マイカーによる滞在型レクリエーションパターンの普及と相まって新しいライフスタイルとして定着していくに違いない。

本公園予定地は、景観的にも優れた樹林や水面に恵まれており、こうした既存の自然資源を十分に活用したアウトドアライフの空間を整備していくことが求められる。

## 宇宙とのふれあい

### ③自己と宇宙の同一性の発見

(五感で自然を体験し、自己を理解すること)

#### 3-3. 宇宙とのふれあい

##### 3-3-1. 自己と宇宙の再発見

現代人が忘れかけていた宇宙との直接的な触れ  
合いの空間を創出する。

今日、宇宙開発は、めざましい発展を遂げ、科学研究、衛星通信、地球資源の探索、宇宙空間に於ける実験等の多彩な展開となって着実にその成果が蓄積されつつある。

一方、人文学的にも宇宙は哲学、文学、宗教の主要な対象であった。例えば満濃池の改築でも有名な**弘法大師(空海)は、自己と宇宙の同一性を発見することが大切であると説いている。**

しかし、多くの現代人にとって宇宙は、いまや疎遠な対象となってしまった。新聞、雑誌、TVを通じて、様々な宇宙に関する情報を得ることがあっても、直接的に宇宙とふれあうことは、極めて稀にしか行われないのである。

本公園では、大気の清浄な地域に立地する特性・自己と宇宙の同一性を説いた弘法大師(空海)の改築による満濃池の湖畔という文化的土壌を活かして、宇宙とのふれあいの空間を創出する。こうしたふれあいこそが現代人にとって最も効果的なレクリエーションを提供するに違いない。

## (2)まんのう公園が果たしてきた役割と 公園の活性化に向けた課題

# 地域活性化への貢献

まんのう公園は、その存在と多彩な取組により地域に様々な効用を発揮しており、ステークホルダーに対して公園の価値を発信していくことが重要です。また、一方では、大型イベント時（イルミネーション、音楽フェス等）の道路渋滞等により、地域住民の生活に支障をもたらす一面もあるため、今後の利用拡大を図る中で、周辺自治体や地域住民との相互理解を一層深めていくことが課題となります。

## 公園による周辺地域への主な効果（ストック効果）

- 地域の活性化、観光振興への貢献
- 地域の歴史、文化、自然等の情報の発信
- スポーツを通じた交流機会の提供、健康増進
- 里山文化を伝える上でも重要な自然環境の提供、里山で長く営まれてきた地域文化を継承していく場の提供
- 動植物の生態や生息環境等を学ぶ機会を提供し、身近な自然環境の保全意識を高める場
- 広域防災拠点としての機能と、利用者の一時避難地やまんのう町の予備的避難場所としての対応



ウィンターファンタジー



地域の伝統芸能「獅子舞」の実施



トレイルフェスタ



里山伝承体験教室



シイタケの菌打ち体験



里山の生きものにふれあう  
ガイドウォーク

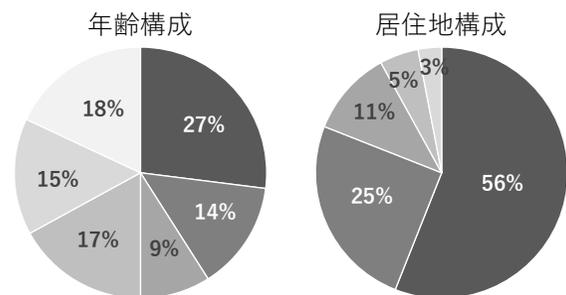


災害発生時の訓練実施

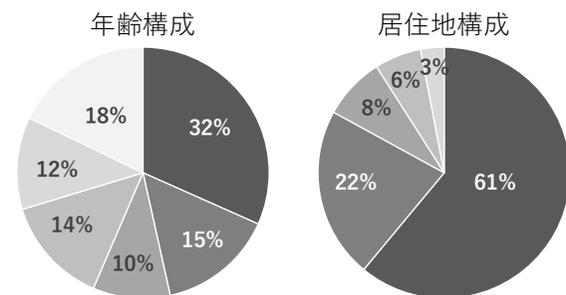
# 各ゾーンにおける利用状況

園内の各ゾーンにおいて利用状況が異なり、特に自然活用ゾーン、湖畔ゾーン、環境保全ゾーンでは、高齢者・県内の利用が多い傾向にあります。今後、満濃池や地域と連携した公園のブランディングにより、集客力を高めることが課題となっています。また、利用者の園内消費も限定的となるため、各ゾーンの特性を活かした消費機会の提供も課題となっています。

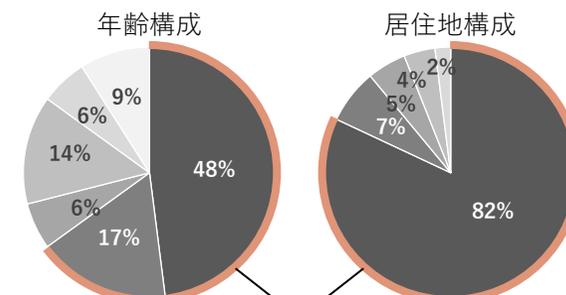
**中央広場ゾーン** (推定利用者数280,351人)



**健康ゾーン** (推定利用者数98,452人)

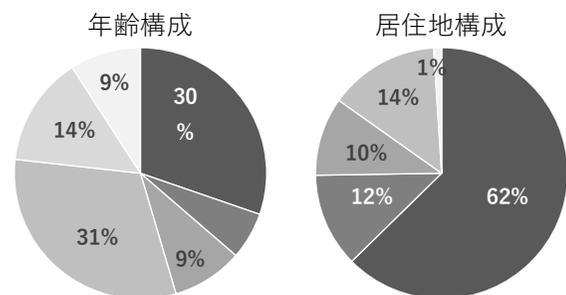


**自然活用ゾーン** (推定利用者数34,071人)

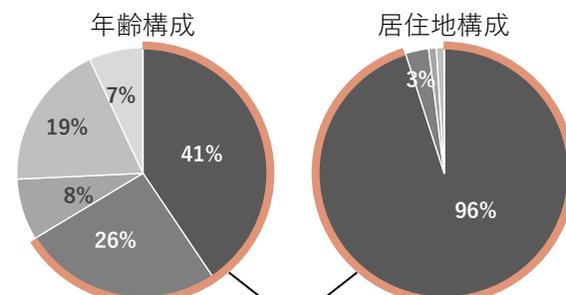


高齢者・県内の利用が多い。

**宿泊ゾーン** (推定利用者数17,299人)

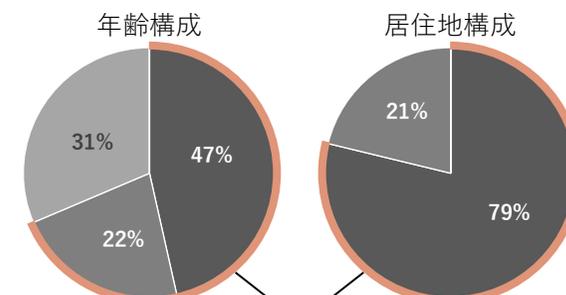


**湖畔ゾーン** (推定利用者数3,046人)



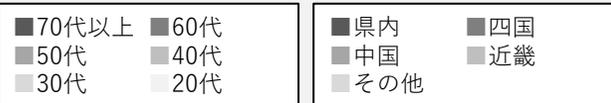
高齢者・県内の利用が多い。

**環境保全ゾーン** (推定利用者数529人)



高齢者・県内の利用が多い。

【凡例】



※10代は対象外。

※訪日外国人は対象外。

携帯電話端末のGPS位置情報から取得した利用者データより分析

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

位置情報取得期間：令和5年1月～12月の1年間

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計

# 持続的な公園経営に向けた更新投資

これまで国営公園の園内施設の更新投資は主に国費によって行われてきましたが、公園の概成に伴い、国費による積極的なバリューアップ投資は難しくなりつつあります。

今後、持続的な公園経営を実現するためには、入園料やイベント料金、収益施設等の利用料金を拡大すると共に、それらの収益を還元しつつ、利用ニーズを捉えたメリハリのある更新投資を行っていくことが、課題となっています。

## 園内施設の更新投資

### 利用者にレクリエーションを提供する施設



宿泊キャビン棟



自然生態園展示館



遊具 等

### 公園のインフラ等



舗装・橋梁



耐震性貯水槽 等

収益還元による  
更新投資

利用ニーズを捉えた  
メリハリある  
更新投資

安定的・持続的な  
事業環境の醸成

## 消費機会の拡大

### 入園料やイベント料金

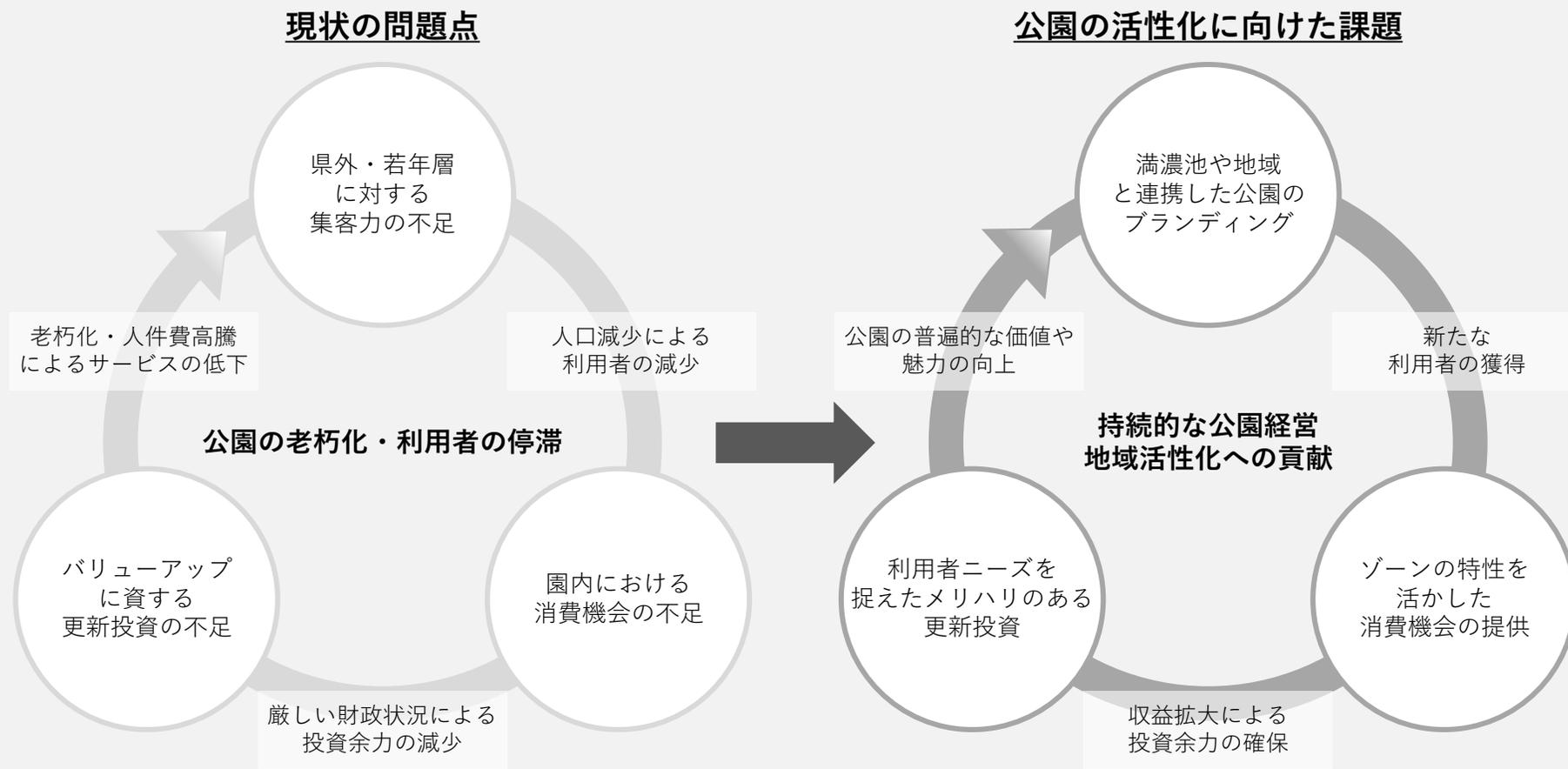
- ▶ 繁忙期・閑散期に応じて入園料等を調整するダイナミックプライシングの導入
- ▶ 広大な空間や地域の魅力を活かしたイベントの企画・開催
- ▶ まんのう公園の集客力を向上するための広告宣伝やプロモーション活動

### 収益施設等の利用料金

- ▶ ゾーンの特徴を活かしたアクティビティ・体験プログラムの導入
- ▶ 飲食施設や宿泊施設等の充実による快適性・滞在性の向上
- ▶ 地域の魅力を堪能できる食事や買い物、アートの提供などの付加価値の創出

# 公園の活性化に向けた課題

満濃池や地域と連携したブランディングや、ゾーン特性を活かした消費機会の提供により、集客力及び収益性の向上を図ることを目指します。また、得られた収益をメリハリのある更新投資に充当することで、持続的な公園経営や地域活性化への貢献に向けた好循環を形成することを目指します。



### (3)まんのう公園を取り巻く社会情勢と公園が果たすべき役割

# まんのう公園が果たすべき役割

まんのう公園を取り巻く社会情勢を踏まえ、①特別なレクリエーションや、人々の活動機会を提供する、②自然と人の接点となり、自然生態系を育む、③地域固有の魅力を育て発信する、という3つの役割を果たしていくことが重要であると考えます。

## まんのう公園を取り巻く社会情勢

Well-beingの追求

ネイチャーポジティブの浸透

観光・旅行形態の多様化

政策・  
企業動向



地方移住やワーケーション等の  
推進

自然再興に向けた  
政策・企業活動

観光客の誘致、  
観光消費機会の提供

人々の  
関心



自然環境や暮らしを重視した  
ライフスタイル

自然や生き物と触れ合う  
体験活動

新しいスポットの開拓、  
地域コミュニティの支援

まんのう  
公園  
が果たす  
べき役割

特別なレクリエーションや、  
人々の活動機会を提供する

自然と人の接点となり、  
自然生態系を育む

地域固有の魅力を育て、  
発信する

# Well-beingの追及

Well-being<sup>1</sup>を追求し、自然豊かな環境や生活重視のライフスタイルを求める人々が増えています。  
 コロナ禍以降は、ワークスタイルも多様化し、地方移住やワーケーション等に関する地方自治体の取組も活発化しています。

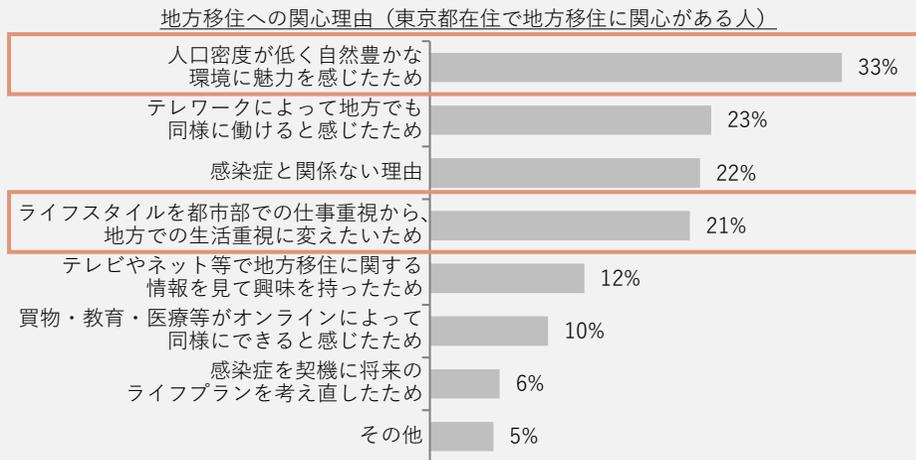
## 香川県への移住者の増加

✓ コロナ禍以降、香川県への移住者が大幅増加傾向（20・30代が多い）



## Well-beingへの関心の高まり

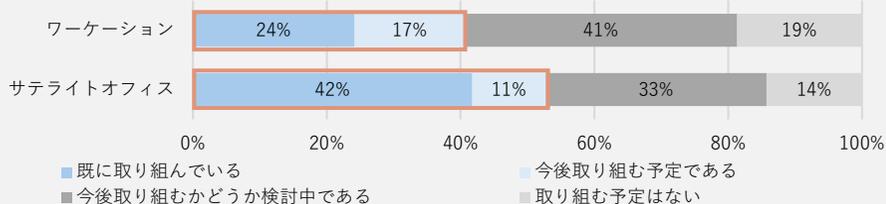
✓ 自然豊かな環境、生活重視のライフスタイルへの関心が拡大



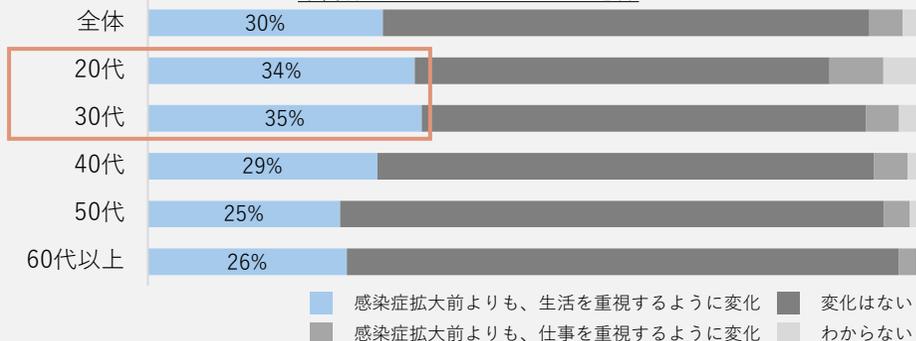
## 四国圏におけるワーケーション等の推進

✓ 四国圏全域で、ワーケーション等の誘致が盛ん。特に、徳島県は、「徳島アワーケーション（阿波×ワーケーション）」を積極展開

四国91町村のサテライトオフィスとワーケーションの誘致に向けた取り組み状況（2022）



## 年代別ワークライフバランスの意識



出典：香川県「令和5年度の移住者数・移住相談件数について」より作成

四国経済連合会「サテライトオフィス・ワーケーションが地域を変える～テレワーク時代における企業や人の誘致～」

内閣府(2023)「第6回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」

1: Well-beingについて確立された定義はありませんが、本ビジョンにおいては「身体的、精神的、社会的に『良い状態』であること」を表す概念として用います。

## 特別なレクリエーションや、人々の活動機会を提供する

広大な空間や豊かな自然を活かした特別なレクリエーションにより、利用者に活力を与えるとともに、公園運営に関わる人々にも多彩な園内活動の機会を提供します。これにより地域の人々が誇りに思えるような公園になることを目指します。

### 「Well-beingの追求」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

利用者への  
特別なレクリエーションの提供

- ・ 満濃池の景観や大規模な花修景を活用して、**ここにしかない特別な体験を提供し、利用者の幸福度を高める。**
- ・ オンツツジに象徴される郷土の自然や四季との触れあいを通じて、**自分自身を見つめなおす機会**や**社会生活を営む上での活力**を与える。



公園内の活動者への  
多彩な活動機会の提供

- ・ 運営・イベント・ボランティア等の多彩な活動を通じて、たくさんの活動者が、**自然や人と触れ合いながら、いきいきと過ごすことのできる場所**となる。
- ・ **地域の医療・福祉・教育団体等と連携し、幅広い年代の人々のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）の向上**につながる活動を促進する。



地域の人々にとって  
誇りに思える場所になる

- ・ 地域の伝統行事や学校行事の場として、公園を活用し、**地域の人々の思い出や愛着を育む。**
- ・ 地域固有の自然・歴史・文化を、国内外の観光客に発信できる拠点となることで、**地域の人々の誇りを形成する。**



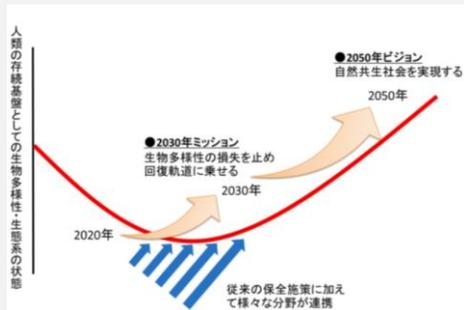
# ネイチャーポジティブの浸透

自然生態系を回復軌道に乗せるネイチャーポジティブ（自然再興）の考え方が、世界共通の目標として浸透しつつあります。また、子どもたちの健全な成長・発達に寄与するような、自然（山や森）や生き物（動物や花）と触れ合う体験活動が必要とされています。

## ネイチャーポジティブに向けた政策目標・企業活動

- ✓ 2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復軌道に乗せることが世界共通の目標として浸透。

「2030年ネイチャーポジティブ」の考え方



- ✓ 多くの大企業が、生物多様性を重要な経営課題として認識。

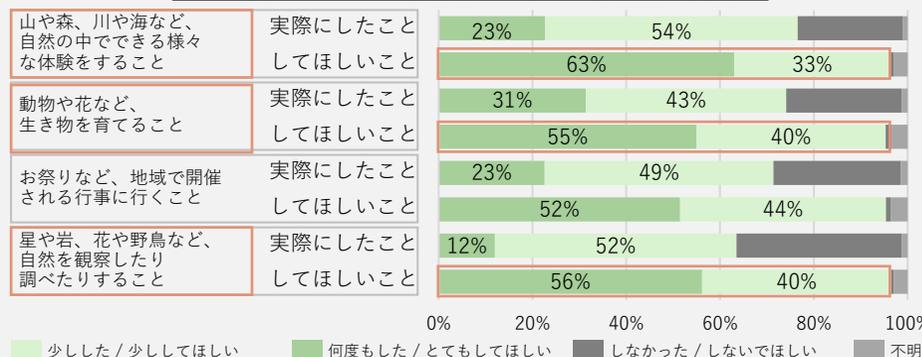
取締役会や経営会議で生物多様性に関する報告や決定がある企業会員の割合<sup>1</sup>



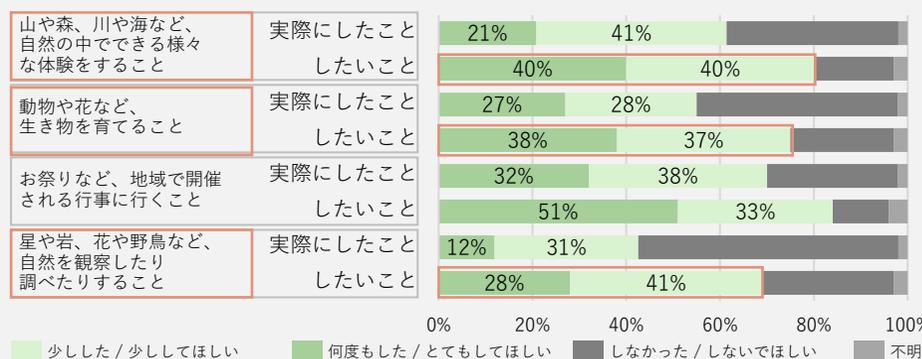
## 自然と触れ合う体験活動の必要性

- ✓ 生徒や小学生の保護者の多くが、自然（生き物等）との触れ合いや地域の行事に参加する体験を求めている。

1年間の学校外での体験活動（小学生の保護者の回答）<sup>2</sup>



1年間の学校外での体験活動（中2、高2の回答）<sup>2</sup>



出典：環境省（2022）「次期生物多様性国家戦略素案」（自然環境部会 生物多様性国家戦略小委員会（第4回）配布資料1-3）

環境省自然環境局（2024）「ネイチャーポジティブ経済移行戦略 参考資料集」

国立青少年教育振興機構（2024）『「青少年の体験活動等に関する意識調査報告書」（令和4年度調査）〈令和6年3月発行〉』を基に作成

1：日本経済団体連合会（2023）「企業の生物多様性への取組に関するアンケート調査」結果を基に環境省作成

2：小数点以下を四捨五入

# 自然と人の接点となり、自然生態系を育む

満濃池は、遥か昔から、降雨の少ない讃岐の地に命の水を供給してきました。その満濃池に隣接するまんのう公園においては、山や水の恵みや人々の感謝の念、自然と共生した里山の暮らしを人々に伝えていく役割があります。

## 「ネイチャーポジティブの浸透」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

讃岐の山の恵みや、  
山と人の関係を紐解く

- まんのう公園は、平野部と山岳部の境界にあり、満濃池は、**山の水を平野の農地に供給**してきた。
- まんのう公園の南東にある中寺廃寺跡<sup>1</sup>からは古来における**山と人との関係を窺い知る**ことができる。
- 山の恵み、山と人の関係を紐解き、現代に伝える。



降雨の少ない讃岐地方における  
生命の水への感謝を表現

- 日本最大級の貯水量を誇る満濃池は、降雨の少ない香川県の農業の発展を支えてきた。
- まんのう公園のシンボルでもある昇竜の滝や、園内に点在するため池を活用し、**訪れる人に水への感謝の念**を思い起こさせる。



自然と共生する里山の暮らしを  
現代の人の手で伝承

- 自然生態園やさぬきの森では、多くのボランティアが希少種の保護や環境学習活動に携わっている。
- 自然と共生する**里山の暮らしを人の手で再興**するとともに、体験プログラムを通じて、多くの人に**自然との共生の素晴らしさを体感**してもらおう。



1：讃岐山脈の山中にある山林寺院跡で、国の史跡に指定されています。  
出典：まんのう町提供資料、四国八十八景HP

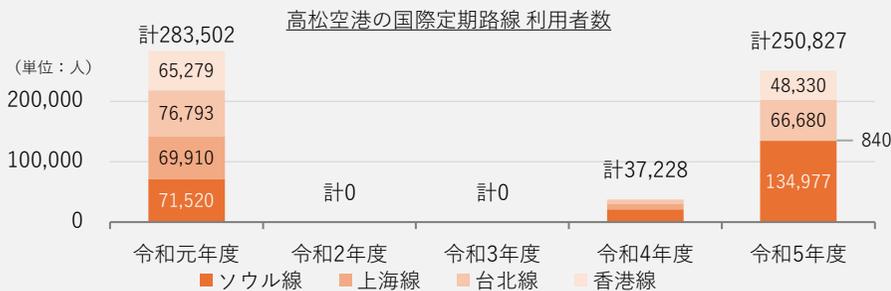
# 観光・旅行形態の多様化

インバウンドをはじめとする観光・旅行形態の多様化により、新しいスポットの開拓や、地域コミュニティの支援など、多彩な旅行ニーズが生まれています。

香川県では、国際路線の運航が再開されており、外国人旅行者1人当たりの観光消費額が全国で7番目に高く、大きな経済効果が期待されます。

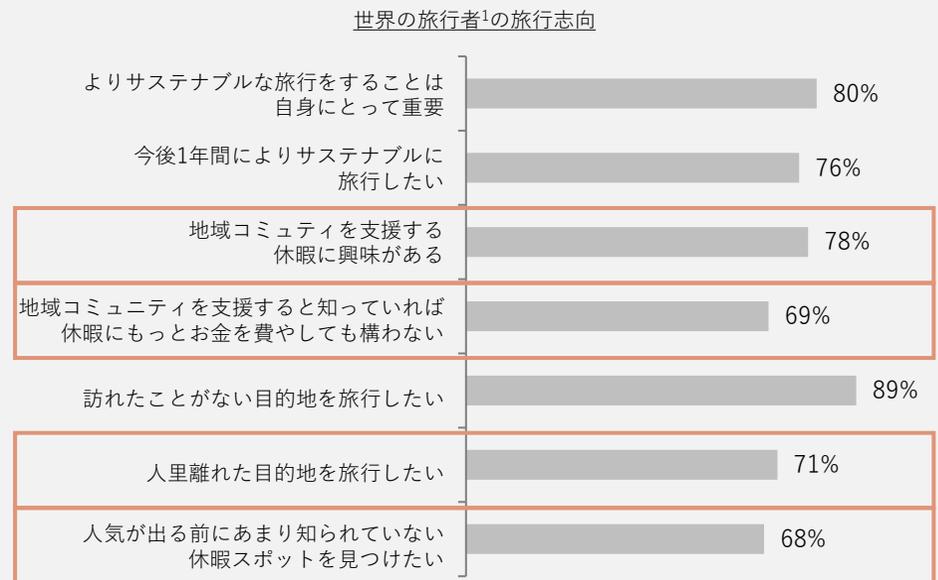
## 高松空港の国際路線利用客数の増加

✓ R5から高松空港国際線の運航が再開（ソウル便はコロナ前以上）

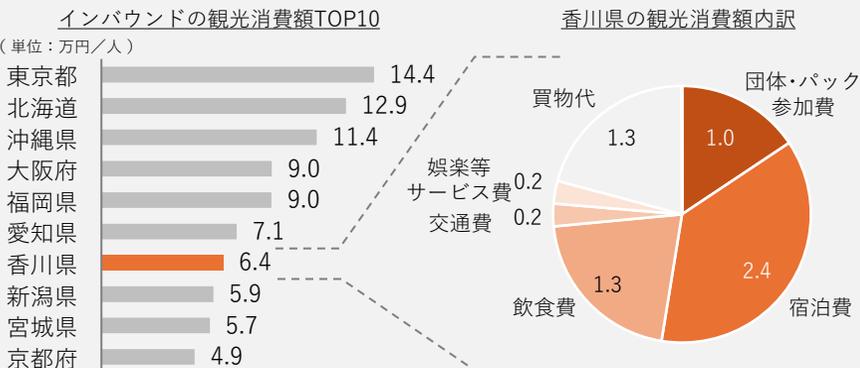


## 世界の旅行ニーズの多様化

✓ 新しいスポットの開拓、地域コミュニティの支援が旅行者のトレンドに



✓ 香川県は、インバウンドの観光消費額が全国第7位



出典：香川県「令和5年度 高松空港利用状況について」

観光庁「2024年 訪日外国人消費動向調査」、「令和5年度観光白書」

(上2問はBooking.com「Sustainable Travel Report 2023」、下4問はAmerican Express Travel「2023 Global Travel Report」に基づき観光庁作成)

注1：「Sustainable Travel Report 2023」は世界の35か国・地域の33,228人を対象として2023年2月に実施

注2：「2023 Global Travel Report」は日米豪等7か国の年1回以上飛行機を利用して旅行をする人を対象として2023年2月に調査実施

1：日本、米国、カナダ、メキシコ、オーストラリア、インド及び英国の7か国

# 地域固有の魅力を育て、発信する

まんのう公園は、満濃池や、四国ならではの魅力を発信する拠点となり、地域とともに発展していくことを目指します。また、観光・旅行形態の多様化など、時代の変化を地域の人々と一緒に捉え、新しい公園の在り方を模索していきます。

## 「観光・旅行形態の多様化」に対応して、まんのう公園が果たすべき役割

### 千三百年続く満濃池の 歴史と文化を承継

- およそ千三百年前に創築された満濃池の「ゆる抜き」は、古くから讃岐の初夏の風物詩となっている。
- まんのう公園に訪れる多くの人に、**満濃池の歴史・文化を知ってもらう**ことで、満濃池と共に公園の価値を高めていく。



### 四国ならではの 魅力を発信

- 現代アートやお遍路さんなどの**四国の観光資源と連携**することで、国内外の観光客の誘致を促進する。
- 香川県やまんのう町と連携しつつ、伝統文化や特産品とコラボした**新しいコンテンツの創出**や、**周辺観光施設との周遊利用の促進**を図る。



### 新たな価値観・ ライフスタイルの提案

- 観光・旅行形態が多様化する中で、まんのう公園から、自然と調和した心を豊かにする時間の使い方など、**新しい価値観やライフスタイルを提案・発信**していく。
- 自然・歴史・文化と調和し、**地域やそこに住む人々と一緒に多様な公園の楽しみ方**を模索し、実践していく。





# コンセプト

まんのう公園の基本計画、本ビジョンで整理した公園活性化に向けた課題、今後果たすべき役割等を踏まえて、以下のコンセプトを掲げました。このコンセプトの下でマネジメントを推進していきます。

## 空海や「まんのう」とともに、人・地域の活力を未来につむぐ

### 空海や「まんのう」とともに

- 821年に弘法大師空海が満濃池の修築を行った際には、彼を慕う多くの人々が集まり、工事を完成させたと伝えられています。
- その後も、満濃池は度重なる決壊と修築を繰り返してきましたが、人々の尽力によって、讃岐の地に生命の水を供給してきました。
- 「まんのう」は、この地の長い歴史の中で育まれてきた、あまたの生命が満ちる豊かな自然を表現した言葉です。

### 人・地域の活力を未来につむぐ

- 空海をはじめとする、この地に尽力し、生きてきた人々の想いや、培われてきた自然の雄大さを仰ぎ、現代を生きる私たちもその英気を受け継いでいきます。
- 地域の活力とは、経済的な発展だけでなく、文化的な豊かさやコミュニティの結束力も意味します。まんのう公園を訪れた人々が地域との関わりを意識しながら、共に豊かな未来を築いていく場としていきます。

# まんのう公園全体のビジョン

公園の活性化に向けた課題に対応した3つの方針【いかす】【つくる】【つなぐ】を設定します。

また、目標・指標をモニタリングしていくことで、ビジョンの実現状況を継続的にフォローアップします。

公園の活性化に向けた課題	満濃池や地域と連携した公園のブランディング	ゾーンの特性を活かした消費機会の提供	利用者ニーズを捉えたメリハリのある更新投資
方針	<p style="text-align: center;"><b>いかす</b></p> <p>「ここでしかできないこと」がたくさんある公園に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>まんのう公園特有の自然・歴史・文化を活かして、遠くからでも、わざわざ足を運びたいくなるような体験や価値を提供する。</li> <li>戦略的なマーケティングや情報発信により集客力を向上する。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>つくる</b></p> <p>多彩なレクリエーションを創り出すことができる公園に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでまんのう公園への関心が薄かった層も呼び込むことができるコンテンツを盛り込む。</li> <li>利用者が、より楽しく、快適に過ごすことのできるサービスを拡充し、園内消費を促す。</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>つなぐ</b></p> <p>みんなの声を取り入れて大切なものをつなげる公園に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運営スタッフ、ボランティアの声を取り入れ、更新投資の最適化や自然環境の保護・再興を図る。</li> <li>周辺の関係者と共に満濃池の保全・活用を図る。</li> </ul>
	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園の知名度の向上</li> <li>景観・園芸等の質の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内消費の増加</li> <li>地域産業等への貢献</li> </ul>
指標 <sup>1</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園利用者数、認知者数</li> <li>景観・園芸に関する活動成果、受賞等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園内消費額</li> <li>イベント開催数・開催団体数</li> <li>地域・ボランティア等との連携成果、活動満足度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設更新状況、利用満足度</li> <li>植物・生物の生育状況</li> <li>満濃池の訪問者数</li> </ul>

1：指標の具体的な数値設定や各ゾーンの指標は、管理運営プログラムや事業計画において具体化する想定です。

# 各ゾーンの取組の方向性

公園全体の活性化に向けて、ゾーンの特性に応じたメリハリのある取組を実施します。次ページから、各ゾーンの目指すべき姿を示します。

## 健康ゾーン

- 新規利用の獲得に向け、新しいコンテンツを積極的に導入。
- ファミリー向けの遊具などを集約し、賑わいをつくる。

## 宿泊ゾーン

- 多様な宿泊ニーズを捉えた民間投資を促進する。
- 他ゾーンとの連携により、1日中遊び回れる公園にする。

## 中央広場ゾーン

- 讃岐の山々の景観、開放的な広場を活かした空間とする。
- インフォメーション機能を強化し公園全体の回遊を促す。

## 自然活用ゾーン

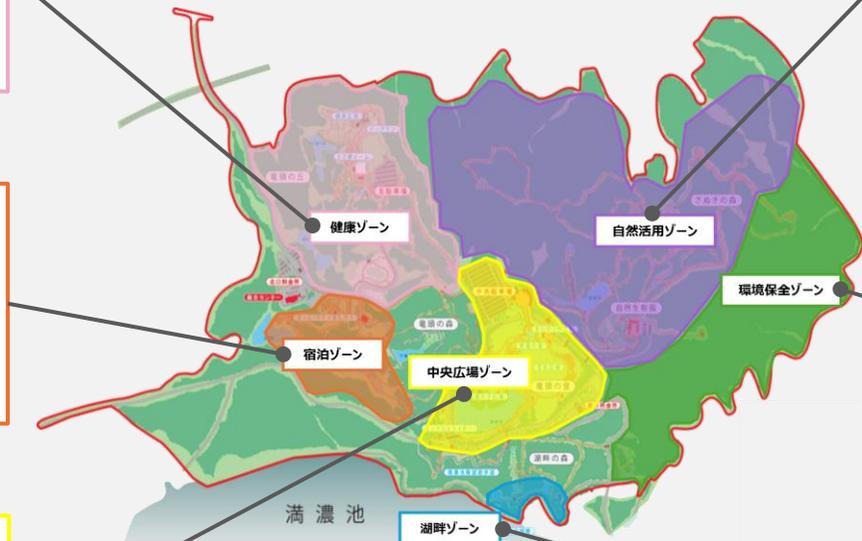
- ボランティア等と対話しながら、里山の暮らしを継承していく。
- 積極的に活動内容を発信し、理解ある支援者を巻き込む。

## 環境保全ゾーン

- さぬきの森での動植物とのふれあいを尊重する。
- 環境的な価値を発信し、森林保全の持続性を高める。

## 湖畔ゾーン

- 名勝満濃池を活かした記憶に残る体験を提供する。
- 眺望・ガイド・アクティビティなどの多面的な活用を図る。



# 各ゾーンの目指すべき姿 ①中央広場ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

本公園の中心であり、入口らしさの演出の他、様々なイベントのできる芝生広場、数多くの花や遊具を主体としたファミリー利用型のだれでも手軽に利用できるゾーン

## 【いかす】ポイント

- ▶ 起伏に富んだ地形を活かしたダイナミックな眺め



昇竜の滝

- ▶ 広大な芝生広場を活かしたイベントの開催やイルミネーション



芝生広場

- ▶ ボランティア団体による、利用者向けの多様な体験プログラム（陶芸・木工・ハーブ教室等）の提供や、手入れの行き届いた花の修景



中央広場ゾーン

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- ▶ 芝生広場の景観性向上による集客拡大

イベントやアクティビティのための広場の機能を確保しつつ、広場周辺の花修景を充実させることが考えられる。

- ▶ 飲食・売店等による滞在性・快適性の向上

見晴らしの良い高台のエリアに魅力的な飲食・売店等を充実させることが考えられる。

- ▶ 遊具の移設による利便性・回遊性の向上

ふわふわドームをはじめとする遊具が駐車場から遠く、満濃池に向かう園路等の見通しを制限しているため、将来的には健康ゾーンへ遊具を移設・集約していくことが考えられる。

- ▶ ゾーン全体の回遊性の向上・ナイトアクティビティの充実

ゾーン全体の回遊性を高めるとともに、イルミネーションを始めとした公園の夜間利用を充実させていくことが考えられる。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ①中央広場ゾーンの目指すべき姿

## 見どころ満載！四国の魅力あふれるメインエントランス

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>心惹かれる景色や、広々とした開放的な空間を満喫できるゾーンに。</li> <li>地域の魅力を活かしたグルメやグッズ、アートなどが充実し、食事や買い物も楽しめるゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアやSNSを通じて、公園のブランド力・発信力を向上。</li> <li>多彩な販売・消費の機会を創出し、地域の産業活性化に寄与。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>観光・行楽</p>	<p>集客層</p> <p>子どもからシニアまで幅広い旅行者</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>遠くても一度は行ってみたい場所</p>	<p>滞在時間</p> <p>2~3時間からしっかり楽しめる</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)				
	さぬきの山々をバックに広がる一面の花畑	イルミネーションや星空観察時の夜の撮影会	四国中のグルメ・グッズが堪能できるマルシェ	地域と結び付いたアート作品の展示

1：コンテンツ（例）は、官民連携等により、今後、管理運営事業者の資金・ノウハウを活用しながら充実を図るコンテンツの一例であり、具体的な計画ではありません。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ②健康ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

四国有数の花・紅葉風景の中で、子どもからお年寄りまで、  
自分に合った心身の健康づくりができるゾーン

## 【いかす】ポイント

- ▶ 花巡りの丘での花修景・眺め



花巡りの丘

- ▶ 大屋根（ドラ夢ドーム）や多目的広場を活かした日常、イベント時の多様な利用への対応



ドラ夢ドーム

- ▶ 公園のマスコットキャラクター（ドラ夢）を活用したイベントや広報活動



健康ゾーン

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- ▶ 花巡りの丘を活用した特別感の醸成

花巡りの丘（ネモフィラ・コキア）とアクティビティを組み合わせるなど、まんのう公園にしかない特別感のある魅力を創出することが考えられる。

- ▶ ファミリー層向けのコンテンツ充実

北駐車場の利便性や、雨天に対応できるドラ夢ドームを活かし、ファミリー層向けの遊具やアクティビティの充実を図ることが考えられる。

- ▶ 既存施設の再編検討

利用者が少ない健康遊具などは、別機能への転換を含めた再編検討の余地がある。

1: 基本計画は、全面供用前の平成16年度に策定されたものであり、現在の利用状況と異なる部分もあるため、必ずしも当該ゾーニングに縛られる必要はないと考えています。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ②健康ゾーンの目指すべき姿

## 楽しい体験がいっぱい！花にあふれたアクティビティゾーン

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファミリーが楽しめる遊具やアクティビティを集約し、思いっきり遊べるゾーンに。</li> <li>四季折々の花々や、満濃池・讃岐平野への広がりを活かし、ここにしかないゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しいコンテンツを積極的に取り入れ、これまで公園に来なかった利用層にもアプローチ。</li> <li>広々とした空間やドラムドームの屋根・照明を活かし、多様なイベントを開催・誘致。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>レクリエーション、 アクティビティ</p>	<p>集客層</p> <p>四国圏内の ファミリー層が中心</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>地域の遊び場として 最初に思い浮かぶ場所</p>	<p>滞在時間</p> <p>1日しっかり遊べる</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)	 <p>ネモフィラをバックにした アーバンスポーツフィールド</p>	 <p>満濃池と讃岐平野を一望 できる気球体験</p>	 <p>アニメやゲームとコラボした イベントの開催</p>	 <p>のびのび遊べる アスレチック遊具</p>

# 各ゾーンの目指すべき姿 ③自然活用ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

自然生態園を中心とした四国らしい里山環境や豊かな自然環境の中で  
自然鑑賞、レクリエーション活動、持続可能な社会づくりについての体験・学習ができるゾーン

## 【いかす】ポイント

- 公園の設立当初（約25年前）から継続しているインタープリター活動
- 長い年月をかけて、人の手で再生してきた讃岐の里山の原風景



稲作（田植え）体験

- 生息している多様な植物・昆虫・動物との触れあい



- ガイドウォーク（インタープリテーション）



自然活用ゾーン

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- 幅広い利用層に対する活動の周知・普及  
現在は、地元の小中学生等の参加が多い。四国全域からの集客や、中央広場ゾーン・宿泊ゾーンからの回遊利用を促進していくことが考えられる。
- 資金面・経営面を含めた活動の持続性の担保

現在は、体験参加者から最低限の参加料のみを得ており、参加受付や植栽管理は、運営維持管理業務の一環として行われている。

幅広いステークホルダーから、自然保護や活動の支援金を募るなど、持続性を担保していくことが考えられる。

- 他の国営公園等との人材・技術交流

現在、インタープリターが活動している国営公園は、まんのう公園と越後丘陵公園のみ。人材や技術のネットワークを広げ、持続性を高めていくことが重要である。

1：基本計画は、全面供用前の平成16年度に策定されたものであり、現在の利用状況と異なる部分もあるため、必ずしも当該ゾーニングに縛られる必要はないと考えています。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ③自然活用ゾーンの目指すべき姿

## みんなで讃岐の自然と里山を語り紡いでゆくゾーン

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 生きとし生けるものに五感でふれあい、自然とのつながりを体感できるゾーンに。</li> <li>• 里山の伝統的な暮らしや営みを、創造的に後世に継承していくゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ここでしかできない貴重な体験や活動をもっと魅力的に利用者に発信していく。</li> <li>• 理解者からの支援を積極的に募り、人材・技術の交流を図ることで、活動の持続性を高める。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>自然とふれあう 自然再興の実践</p>	<p>集客層</p> <p>自然に興味がある人 活動支援者</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>ネイチャーポジティブ の聖地</p>	<p>滞在時間</p> <p>大小さまざまな プログラムを用意</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)	 <p>外国人も楽しめる 自然生態園ガイドウォーク</p>	 <p>誰でも写真を投稿できる 「オンライン生き物図鑑」</p>	 <p>ふるさと納税で届く 四季のお便りや讃岐三白</p>	 <p>産・官・学・地域参加型の 自然再興ワークショップ</p>

# 各ゾーンの目指すべき姿 ④ 宿泊ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

ファミリーや団体で利用できるキャビン、カーサイト等の宿泊機能を備えたゾーン

## 【いかす】ポイント

- ▶ 多くの利用者への宿泊・滞在の機会提供



オートキャンプ場

- ▶ ビギナーにとっても使いやすいキャンプ場  
(トイレ、水回り、スタッフ対応が充実)



管理センター



宿泊ゾーン

### 現在の施設構成

- ▶ 各種キャビン : 25棟\*
- ▶ トレーラーハウス : 1棟
- ▶ キャンピングカーサイト : 5サイト
- ▶ 一般カーサイト : 59サイト
- ▶ フリーサイト : 15サイト

※コンフォートキャビンを含む

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- ▶ 園内における多彩なコンテンツとの連携

園内の様々な体験・アクティビティ等と連携し、長時間の滞在を楽しめるようにしていくことが考えられる。

- ▶ キャンプ場としてのセールスポイントの強化

キャンプ場としての付加価値を高める要素（食、雰囲気、遊び等）を追求していくことが考えられる。

- ▶ ニーズの変化に対応した更新投資による持続的な経営の実現

ニーズの多様化が著しいキャンプ市場において、タイムリーな更新投資を行い、収益性を高めることが重要である。老朽化が進むキャビン等は、価格設定の見直しも含めて、持続的な更新投資計画を立てていくことが望まれる。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ④ 宿泊ゾーンの目指すべき姿

## レッツ アウトドアライフ！思い思いのアウトドアが満喫できるゾーン

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>バーベキュー、サウナなど多彩なアウトドアライフが楽しめるゾーンに。</li> <li>他のゾーンとも連携して、退屈することなく充実した休暇が過ごせるゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>手軽なカーサイトから、自然景観と調和した上質なコテージまで、多様なニーズにを捉えた宿泊サービスを提供。</li> <li>民間投資により施設のバリューアップを図り、滞在型の消費を拡大する。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>キャンプ、宿泊</p>	<p>集客層</p> <p>アウトドアビギナー ゆっくり滞在したい人</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>満足間違いなしの 滞在スポット</p>	<p>滞在時間</p> <p>宿泊を伴って じっくり滞在</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)	 <p>初心者にもやさしい 薪割り体験</p>	 <p>こだわりのアイテムが揃う アウトドアショップ</p>	 <p>日常の疲れを癒す バレルサウナ</p>	 <p>自然景観と調和した 優雅な時間を過ごせるコテージ</p>

1：コンテンツ（例）は、官民連携等により、今後、管理運営事業者の資金・ノウハウを活用しながら充実を図るコンテンツの一例であり、具体的な計画ではありません。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ⑤湖畔ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

満濃池周辺の自然環境を保全・活用しながら、地域固有の景観である満濃池や象頭山を眺め、空海の事跡やため池のある中讃地域の自然環境に触れるゾーン

## 【いかす】ポイント

- ▶ 満濃池に隣接したロケーションや栈橋、遊歩道からの眺望



満濃池展望遊歩道



岬の栈橋



湖畔ゾーン及び湖畔の森

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- ▶ 満濃池を感じられる新たな利用体験の創出

満濃池や星空を活用し、「宇宙とのふれあい」を感じられる特別感のある体験プログラムやアクティビティを創出することが望まれる。

- ▶ 満濃池展望遊歩道への案内の改善

現在は満濃池を見ずに帰ってしまう利用者も少なくない。多くの人に満濃池を見る機会を提供できるように案内やアクセスを改善していくことが重要である。

# 各ゾーンの目指すべき姿 ⑤湖畔ゾーンの目指すべき姿

## 満濃池の新たな一面を探求していくゾーン

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>雄大な満濃池の魅力を体感できるビューポイントや活動が充実したゾーンに。</li> <li>空海をはじめとする歴史をテーマとした体験の創出や、園路整備等により、満濃池周辺の回遊性を高め、多くの人を訪れるゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>満濃池修築の歴史・文化や、保安林、満濃池の水質保全にも配慮しつつ、満濃池の名勝としての価値向上に貢献する。</li> <li>まんのう町や香川県満濃池森林公園との親密な連携の下で、満濃池の利活用を進める。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>満濃池の鑑賞、散策</p>	<p>集客層</p> <p>地元民から観光客まで幅広い人々</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>一生に一度は見るべき名勝地</p>	<p>滞在時間</p> <p>1~2時間からしっかり堪能できる</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)	 <p>満濃池の全景を一望できる展望塔</p>	 <p>満濃池一周(10km)のランニングコース</p>	 <p>空海の功績や満濃池の歴史、地理が学べる資料展示<sup>2</sup></p>	 <p>満濃池に向かって漕ぐブランコ</p>

1：コンテンツ(例)は、官民連携等により、今後、管理運営事業者の資金・ノウハウを活用しながら充実を図るコンテンツの一例であり、具体的な計画ではありません。

2：出典：満濃池絵図(1837年)(香川県立ミュージアム所蔵)(名勝満濃池保存活用計画書より抜粋)

# 各ゾーンの目指すべき姿 ⑥環境保全ゾーンの取組ポイント

基本計画<sup>1</sup>での  
ゾーニング

公園外周部及びゾーン間の緩衝樹林帯など、主に自然環境の保全を目指すゾーン

## 【いやす】ポイント

- 「さぬきの森」の開園当初（約11年前）から継続している、市民共同による里山の保全活動（郷土種であるオンツツジの植生保全など）
- 里山再生をテーマにした技能向上や危険予防



環境学習(植栽・伐採体験等)

- 森を活用した遊び、森で採れる食材の栽培・採取・料理



シイタケの栽培



環境保全ゾーン及びさぬきの森

## 【つくる】【つなぐ】ポイント

- 保全活動の対外的な発信・アピール

現在は、保全活動の内容が、利用者や地域に十分に知られているとはいえない。  
園内展示やアニュアルレポート、ホームページ等を通じて、活動が多くの人に知られることによって公園の存在価値の向上が望まれる。

- 手を加えすぎない環境保全方法の検証

昔ながらの森を維持・再現するために、必要十分な管理水準・管理方法を、ボランティア等との対話を含めて、検証していくことが望まれる。

- 利用者へのプログラム提供

現在、さぬきの森に立ち入る人の多くは、保全活動に関わるボランティアである。利用者にも里山の自然を体感してもらうため、プログラムの充実を図ることが望まれる。

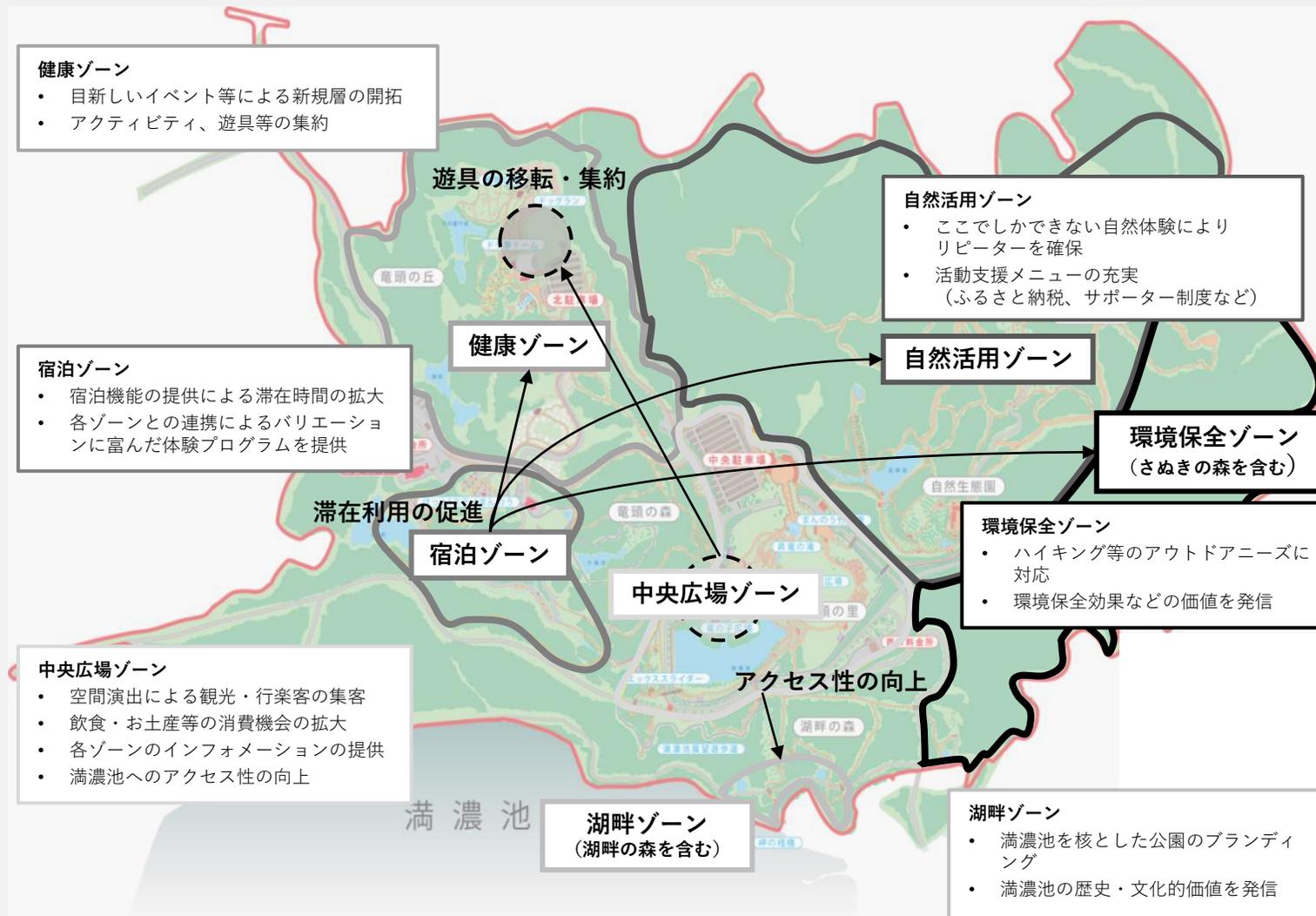
# 各ゾーンの目指すべき姿 ⑥環境保全ゾーンの目指すべき姿

## 多種多彩な森林の利活用を実践していくゾーン

方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>多彩な体験プログラムを設けることで、利用者が足を踏み入れたいくなるゾーンに。</li> <li>散策路の険しさや整備状況を分かりやすく案内し、安全性と利便性を両立するゾーンに。</li> </ul>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用を促進するエリア、自然に還していくエリアのメリハリをつけ、管理の効率化を図る。</li> <li>森の恵み（薪や食材等）の提供や、環境保全効果の可視化により、価値を発信する。</li> </ul>			
利用想定	<p>利用目的</p> <p>森林の散策</p>	<p>集客層</p> <p>山登り、ハイキングの ビギナー</p>	<p>ブランドイメージ</p> <p>ビギナーでも歩きやすい 森林コース</p>	<p>滞在時間</p> <p>半日～1日</p>
コンテンツ <sup>1</sup> (例)	 <p>ビギナーも歩いてみたいくなる ハイキングコース</p>	 <p>子どもでも安全に楽しめる 木登り体験</p>	 <p>園内で栽培された しいたけの料理・提供</p>	 <p>DXを活用した樹木管理 CO2削減量の可視化</p>

# ゾーン間の連携

各ゾーンの特色を活かした集客や消費機会の拡大、価値の発信により、回遊性を高めながら、公園全体での更なる発展を目指します。そのため次ページからコラム的に、まんのう公園の回遊利用のイメージを示します。



# 回遊利用イメージ ①

## ペルソナ1 取り立ての免許でドライブするのが好きな大学生



- 毎週末、友達とのドライブを楽しみにしていて、いつも次に行く場所を探している。
- 平日は、大学の講義とアルバイトを詰め込んで、スケジュールがいっぱい。
- いましかできないことを、友達と一緒に体験して、感動を共有するのが幸せ。

**価値観**

- ドライブ中のおしゃべりや寄り道が楽しくて、**遠くても、時間がかかっても気にしない。**
- 必ずしも流行を追いかけるのではなく、**自分が面白そうだと思った場所**に行ってみる。
- 徹底的に調べて、**コスト・パフォーマンスを追求**するのも、ドライブの楽しみの要素のひとつ。

	情報収集	体験	食事
行動の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>• SNSのチェックは欠かさない</li> <li>• 写真で見た第一印象が最重要</li> <li>• 友達間での情報交換も活発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いましかできない特別な体験を優先</li> <li>• 体を動かすのも、ゆっくりするのも好き</li> <li>• 何でも写真に撮ってシェアしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 旅行先で行きたいお店は決めておく</li> <li>• 人気店に並ぶのは苦にならない</li> <li>• 甘いものはついつい買ってしまう</li> </ul>

	移動	食事	体験
回遊利用イメージ (周辺地域も含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 朝から車で1時間半</li> <li>• 昼前に公園に到着</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>• マルシェで腹ごしらえ</li> <li>• ずっと食べてみたかったハザマイチジクを堪能</li> </ul>	 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 気球で満濃池を一望</li> <li>• シーズンもこだわって、2カ月前から予約済</li> </ul>

中央広場ゾーン

健康ゾーン

1：ペルソナとは、まんのう公園の将来像をより具体的にイメージするために用いる、架空の利用者像です。  
ペルソナの設定に当たっては、複数の利用者へのインタビューにより、まんのう公園に行きたいと思う根源的な動機・欲求（インサイト）を調査の上、反映しています。

## 回遊利用イメージ ②

ペルソナ

### 週末はいつもキャンプなアクティブ・ファミリー

- パパは、幼いころからのキャンプ好き。多いときは年間30回。
- ママは、家族とゆったり過ごせるところが好き。清潔なシャワーやトイレは必須。
- お兄ちゃんは思いっきり走り回りたい。妹はクラフト体験がお気に入り。



価値観

- 平日がストレスフルであるほど、**休日とはとにかく家の外に飛び出したい。**
- テントを張って、焚火をして、**原始的な時間を過ごすことが、純粋な楽しみ。**
- **親子が一緒になって遊べる時期は意外と短い。** 家族みんなで過ごす日々を大事にしたい。

行動の特徴

情報収集

- 四国・中国圏の人気のキャンプ場は、ほとんど訪問済み
- 最近はお気に入りをリピートしている

体験

- 自分がしたいこと、楽しいことを優先
- 広場・遊具・体験教室・自然観察は、何回やっても飽きない

宿泊

- 夜はテントで虫の声を聞きながら眠る
- 朝は、目玉焼きを焼いたり、コーヒーを淹れたり、ゆっくりと時間を楽しむ

移動

回遊利用イメージ

(周辺地域も含む)

- 朝一に車で出発
- 途中でパン屋さんによって1時間で到着



湖畔ゾーン

体験①

- 満濃池に向かって漕ぐブランコはお気に入り
- 両親はテントの準備

体験②



健康ゾーン

- 昼食のあとは、家族みんなでゲームコラボのイベントに参加
- 1日公園を満喫

# 回遊利用イメージ ③

ペルソナ

## 園内でのガーデニングを楽しむシニアボランティア

- 昔から香川県琴平町に住んでおり、まんのう公園の開園前から満濃池周辺を散歩している
- 定年退職後に時間ができ、まんのう公園でのガーデニング教室に通いはじめた
- 3年間は受講生として通っていたが、4年目からは講師もするようになった



価値観

- 定年退職後に何か趣味が欲しいと思って、身近な場所であるまんのう公園でガーデニングを始めた。
- 草花の手入れをしていると、穏やかな気持ちになる。ガーデニング仲間との談話も楽しんでいる。
- 自分の手がけたガーデニングを、公園に訪れる多くの人に見てもらえるのは嬉しい。

行動の特徴

情報収集（ボランティアを始めたきっかけ）

- まんのう公園には、50代の頃から、花を見に年2～3回行っていた
- 園内にあったガーデニング教室の案内を見て、入会した

体験（活動）

- 週3回、午前2時間は、ガーデニング・ボランティアで活動する
- 自宅でも花を育てていて、仲間同士で種や球根を交換するのも楽しみ

食事

- お昼は自宅で夫と食べることが多い
- 月1回ぐらいは、ボランティア仲間と一緒にランチすることがある

回遊利用イメージ

(周辺地域も含む)

移動

- 朝食を食べた後に、車を運転して15分まで到着



中央広場ゾーン

体験①

- 受講生に教えながら、花壇の手入れをする
- 園路を四季折々の花で飾るのが好き

体験②



健康ゾーン

- 午後は娘家族と合流
- 小学生の孫が花をバックにスケートボードするのを見て楽しんだ

# 回遊利用イメージ ④

ペルソナ

## ローカルな日本を開拓する外国人旅行者

- 東京、京都、札幌、金沢に行ったことがあり、5回目の日本で香川を選んだ。
- これまでは家族旅行が多かったが、今回は恋人と一緒に3泊4日で香川を巡る。
- 日本ならではの自然・歴史・文化と調和したアートや暮らしを体験したい。



価値観

- 観光客として過度なサービスを受けるよりも、**現地の人と同じように日本のいいところを満喫したい。**
- その土地に古くから根付いているものが、**現代でも大事にされ、活かされていることに価値を感じる。**
- ビジネスホテルに泊まって、アクティビティにお金を使うなど、**旅行中のお金の使い方にはメリハリをつける。**

行動の特徴

情報収集

- 瀬戸内国際芸術祭をきっかけに、瀬戸内に興味を持つ
- SNSやVlogでイメージを膨らませてから、旅行プランを練りあげる

体験（公園以外の周遊）

- 高松空港への直行便で到着し、1日目は屋島を散策、2日目は直島でアートを鑑賞。
- 3日目は、仏生山温泉を楽しんだ後にまんのう公園へ

宿泊・食事

- ホームページでの外国語の案内や、アメニティ充実しているホテルを選ぶ
- 食事はお金をかけるのであれば、地元の食材を使ったものを食べたい

移動

回遊利用イメージ

(周辺地域も含む)

- 午前中は、仏生山温泉でゆっくり過ごし、夕方にまんのう公園に到着



中央広場ゾーン

体験①

- ウィンターイルミネーションを楽しんだ後に、澄んだ空気を感じながら星空を眺める



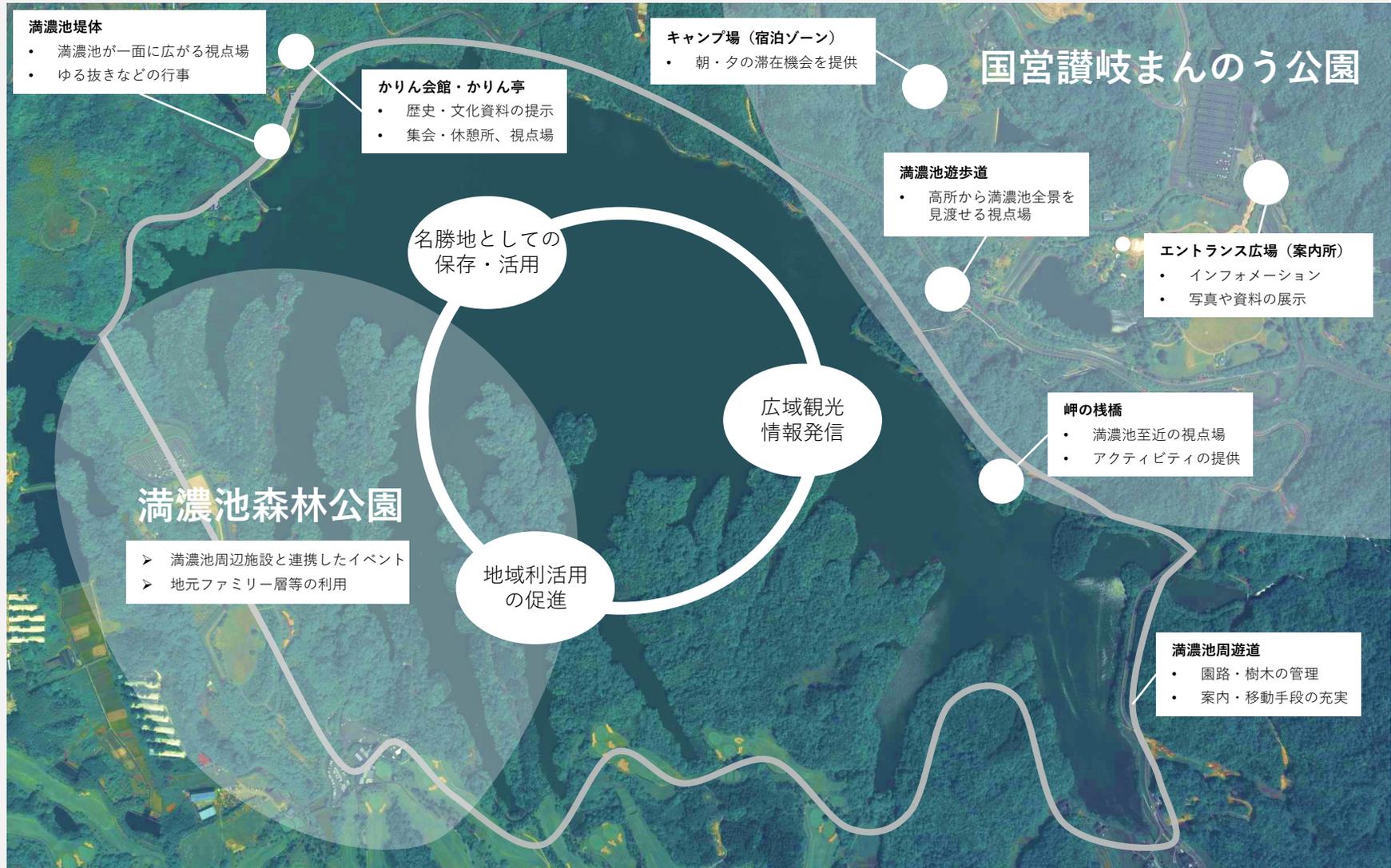
宿泊ゾーン

体験②

- コテージに宿泊して、朝は静寂に包まれた満濃池を観賞
- 高松空港から帰国

# 満濃池周辺との連携

香川県やまんのう町と連携して満濃池の保存・活用を推進し、名勝地としての価値を高めていきます。



# 満濃池及び周辺施設

満濃池は、令和元年に国の名勝に指定されました。満濃池を中心としてその周辺には多彩な見どころがあるため、まんのう公園との周遊促進や、イベント等での連携が考えられます。



## ①満濃池堤体

満濃池を一望できる。6月15日には水門を開く「ゆる抜き」が開催される。



## ②かりん亭

満濃池の美しい姿を眺めながら、本格的な讃岐うどんが食べられる。



## ③かりん会館

学習や研修に利用できる会館。満濃池に関する資料の展示している。



## ④神野神社

満濃池の守護神として奉斎された古社。



## ⑤神野寺

四国別格二十霊場であることから、四国遍路の参拝者も多く訪れる。



## ⑥弘法大師像

昭和8年に神野寺の南の小高い丘に建立された空海の像。



## ⑦ほたる見公園

満濃池の堤防下に整備されたほたるが息する公園。園内には「ほたるの壁画」「ぼたん園」「ほたるの里」等の施設や満濃池へと続く「遊歩道」が整備されている。



## ⑧香川県満濃池森林公園

満濃池の西南岸にあり、野鳥の声を聞きながら森林浴や遊具で楽しめる。自然と親しめる遊歩道や緑の広場、森林学習展示館、森林の館、野鳥の森、ファミリー広場、トリムコースなどが設備されている。



桜のトンネル



森林学習展示館

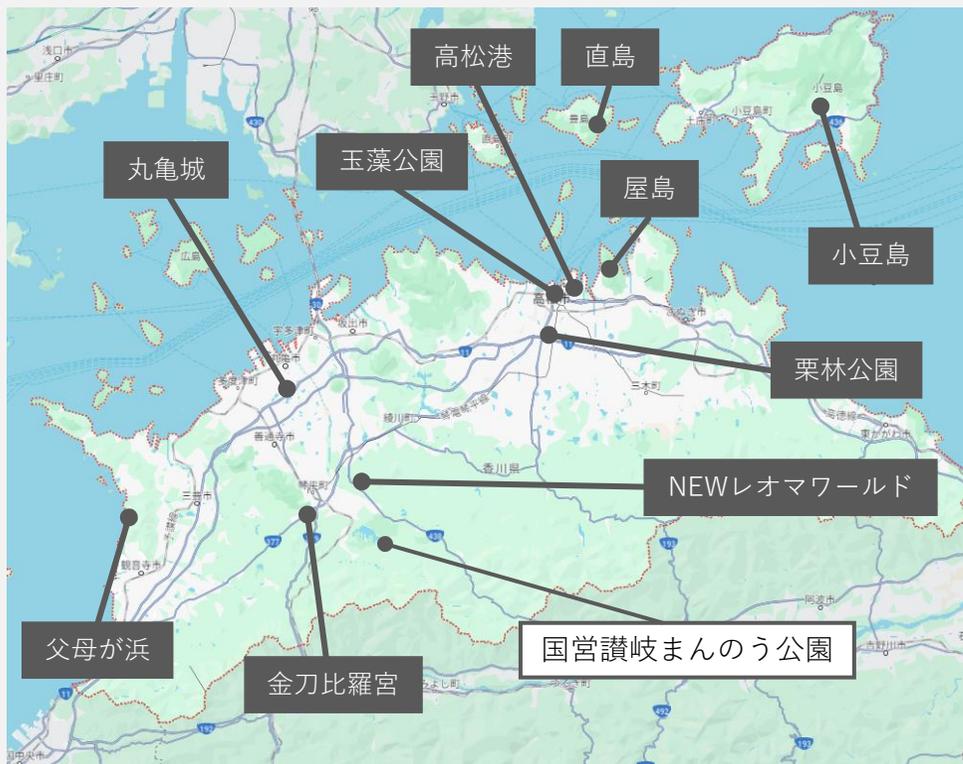


森林の館



# 香川県内の観光施設

香川県内には、固有の歴史・風土を活かした様々な観光施設があり、国内外から多くの観光客が訪れているため、まんのう公園との周遊促進、各施設との広域的な連携が考えられます。



金刀比羅宮



NEWレオマワールド



栗林公園



玉藻公園



高松港



直島



父母が浜



丸亀城



屋島



小豆島

# 香川県及びまんのう町との連携

観光振興・都市計画・森林保全の観点で、地域活性化に向けて、香川県及びまんのう町と連携した施策を推進します。

項目		連携イメージ	
観光振興	観光客誘致	SNSなどを活用した観光・イベント情報の発信	香川県観光振興課
		観光客の受入環境の整備	香川県観光振興課
	コンテンツ開発	ふるさと納税を活用したイベントチケットやグッズ等の販売	まんのう町地域振興課
		地元事業者や特産品等との連携の促進	まんのう町地域振興課
	渋滞対策	大規模イベント時の渋滞対策や駐車場確保に関する協力	まんのう町地域振興課
	都市計画	景観づくり	香川らしい景観づくりに関するアドバイス
屋外広告物の設置に関する助言・許可手続き			香川県都市計画課
名勝としての満濃池の価値の向上			まんのう町教育委員会
公園周辺との連携		香川県内の都市公園（県立公園等）との連携・周遊施策	香川県都市計画課
		満濃池森林公園との連携・周遊施策	香川県森林・林業政策課
		満濃池の景観・歴史・文化等の発信	まんのう町教育委員会
森林保全	森林保全	保安林の適切な保全・管理に関するアドバイス	香川県森林・林業政策課
		名勝地としての森林保全に関するアドバイス、文化庁への申請協力	まんのう町教育委員会

# ビジョン実現に向けた意見交換の場（公園協議会の設置）

ビジョン実現に向けた意見交換を行う公園協議会の設置に向けて、今後、準備・検討していきます。  
本格的な公園協議会の組織構成や活動内容については、今後検討を進めます。

## ビジョンのフォローアップ体制

### 公園協議会

1. 社会情勢の変化への対応  
社会情勢等の変化に応じて、適切にビジョンの見直しを行い、硬直化を防ぐ。
2. 多様な主体の強みを集める  
国、管理運営事業者、香川県、まんのう町、地域団体等の強みを集め、より良い公園運営を目指す。
3. 公平・公正なルール運用、利害調整  
みんなに開かれた公園であり続けるために、公平・公正なルール運用や利害調整を行う。

